



2024年10月8日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiyymca.org
 発行人 / 塩澤 達俊
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

10



表紙の写真から：2024年度北関東YMCAリーダートレーニング『赤城プレキャンプ』にて。リーダーたちが所属YMCAを超えて交流する様子です。

「子どもと関わることのできるボランティアに参加したい」となんとなく高校1年生のころに始めたYMCAでのボランティアも、気付けば大学2年生になっていました。高校生の頃は、貧困撃退のイベントや子ども食堂、マルシェなど地域との関わりが多くありました。大学生になり地域でのイベントに携わりながら、野外プログラムやウエルネスを通して子どもと関わる機会が増えました。YMCAで活動していなければ出会っていなかった人、気付かなかったこと。おそらく高校時代にYMCAに出会っていなかったら今の自分はいなかっただろうと思います。この数年間で子どもたちと関わるたびに元気をもらい、子どもたちが大好きになりました。

『やってみよう!』この言葉は私自身に勇気を与えてくれる言葉です。私は優柔不断でなんでも人に合わせてしまう。そのため話し合いで自分の意見を言わなければならないとき、とても苦痛でした。子どもと関わっているときも迅速な判断が必要な場面が多くありますが、決めきれず断言できないことがとても嫌でした。気付けば「多分いいと思う!」「多分大丈夫!」と「多分」が口癖となり、中途半端な応答ばかりでした。そんな時、大学1年生の秋にコースボランティアリーダーズフォーラムに参加し他県のコースリーダーと関わりました。3日間を通して初めて会った同年代の人とYMCAや自分自身について話し合いをする時間がありました。「さとっちゃんは自分の言葉でしっかりと伝えられることの大切さ、凄さを持っているよ。」フォーラム最終日には自分では考えられないような言葉をグループメンバーがかけてくれました。自分の意見を言うことが苦手な私はその言葉にこの1年間何度も助けられました。「なんとかなる!伝えてみよう!やってみよう!」そう思うようになりました。活動中に悩むことがあれば子どもたちと同じ目線に立ち、子どもたちと一緒に考えま

した。それでもうまくいかないときはもう一度考え、もう一度試みます。「失敗はだめなこと」心のどこかでそんな風に感じていましたが「失敗したらもう一度やってみよう」と子どもたちのチャレンジする姿を見て学ぶことができました。今まで苦手だった人前に立つことも、一人のリーダーとして「子どもたちのために私がこれをやりたい!」と思い自然と行動することができました。私にとってYMCAは様々な価値観に触れ、大切な仲間に出会い、自分自身を成長させてくれた大切な場所です。

誰かのためにと始めたYMCAでの活動もいつしか私のための私の居場所になっていました。「さとっちゃん」子どもたちにそう呼ばれるたびに、ここは私の居場所なんだなと実感します。YMCAのリーダーとして子どもたちと関わることは残り2年半と限られた時間ではありますが、先生でも親でもない斜め上の存在として、子どもたちと一緒に貴重な体験、楽しい時間を過ごすことができたら良いなと思います。『やってみよう』この言葉からもらえる勇気と共に、さらに成長していきたいです。

日本社会事業大学2年 菊地花菜(さとっちゃんリーダー)

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2024年度とちぎYMCA年間聖句

《善いサマリア人》の喩え

新約聖書 ルカによる福音書 第10章30節~37節



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

「夏の様子」



今年の夏は猛暑続きで園庭で遊べない日が多かったのですが、その分、毎日プールに入りました！水鉄砲で友だちや保育者と水をかけあったり、スーパーボールすくいをしたり、「キャー！つめた〜い♪」と言いながら楽しく水遊びをする子どもたちでした。また、1組2組合同で、夏祭りごっこを行いました。それぞれのクラスで、ボール投げ、魚釣り、輪投げ等の出し物や飾りつけの準備も頑張りました。当日は、「いらっしやいませ〜!」とお店屋さんになりきったり、スタンプカード片手に出し物をまわったり、思う存分夏祭りの雰囲気を楽しむことができました！

べんぎん組 武田 絵梨佳

今年も10年に一度の暑い夏と言われ猛暑日が続きましたが、そんな暑さにまけず毎日楽しく、元気に過ごしているか組さんの夏を紹介します。

プールに入る姿はどこか誇らしげ、昨年までは小さなビニールプールに入りましたが、進級して大きなプールデビューを果たした2024年夏、初めの不安そうな表情はどこへやら・・・夏の終わりには伸び伸びと泳ぐ姿が印象的でした。夏休み期間も晴れた日はプールに入り顔をつける練習、潜る練習に一生懸命な子どもたち、あつという間に水慣れし今年も楽しいプール活動が出来ました。2学期もどんな成長が見られるか楽しみです。

いるか組 牛山 愛



くじら組は夏休みの間様々な活動を行いました。毎日の水泳教室ではけのびやバタ足の練習を行い、子どもたちは「泳げるようになった!」と自信がついた様子でした。猛暑日が続く外遊びが制限される日が多かったのですが、室内でみんなでゲームをしたり、将棋などの難しい遊びにもたくさん挑戦していました。「夏」をテーマにした製作等も行い、それぞれイメージした物を伸び伸びと表現して楽しんでいました。生き物にもたくさん触れ、自分たちでお世話をしたり、園庭で見つけた虫を図鑑を使って自分で調べたりしている姿が見られました。

くじら組 栗原 拓己

ようとう保育園

「2歳児つばめ組 できるよ、お着替え!」



今つばめ組では、毎日の着替えを自分たちで頑張っています。「どうやってやるの?」「できないよ」と始めはやり方がわからず援助を求める子どもたちでしたが、保育士と一緒に袖の引っ張り方やズボンの足の通し方などを練習したことで、少しずつできるようになってきました。できるようになってきたことが自信になり、今では自分から率先して衣装ケースから服を出し、着替えに取り組んでいます。時にはなかなか思うようにでき

ず、悔しくて涙する姿もありますが、保育士に援助されながら諦めずにやってみることで、着替えることができています。できた時には「できたよ!」と目をキラキラさせながら伝えにきてくれる姿に、保育士も一緒に喜び、自信へと繋げています。また、着替えだけではなく、服を畳むことにも挑戦中です。「ぱったん」と言う言葉とともに、一つひとつ丁寧に畳んでいます。畳んだ服を見て納得がいけないと、繰り返しやり直す姿も。子どもたちが納得できるまで取り組むことができるよう環境を用意し見守り、必要に応じて援助をしています。

毎日の着替えを通して子どもたちの言葉が、「やって」から「見て!」に変わってきたことに日々成長を感じています。引き続き子どもたちの自分でやろうとする姿を受け止めながら、達成感を味わうことができるよう援助していきたいと思ひます。

つばめ組担任 中島 菜緒・石塚 亜紀・齋藤 大貴



子どもの家だより〜戸祭小子どもの家(とちのみ会)

「楽しい毎日」



9月のとちのみの子どもたちは、猛暑の夏休みを元気に乗り切りプール活動をはじめ様々な体験を通し、心も身体も一回り大きく成長した姿が見られました。「ただいま!」と元気に下校し、すぐに宿題に取り組みます。宿題の他に自主勉強にも取り組んでいます。高学年の子どもたちは宿題や自主勉強の際には学童にある図鑑や本を参考にすることもあり、その様子を低学年の子どもたちが見て真似をして頑張っている様子があります。

勉強だけでなくおやつを食べたり、歌ったり、思い思いに好きな遊びに集中したりと楽しい時間を過ごしています。最近はレゴやLaQ、カプラなどが大人気です。一人でも遊べますが力を合わせて難しい作品も作れるようになりました。

譲り合い、助け合い、一緒に学び合いながら楽しい毎日を過ごしています。これからの季節はハロウィンに向けて、学年別でそれぞれ製作に取り組んでいきます。今から完成が楽しみです。

異年齢で過ごす楽しい生活の場として、今後も益々、楽しく充実した子どもの家にしていきたいと思ひます。



主任支援員 半田 茂美

足利YMCA ひがしやまアトムクラブ

「夏休みの活動にもひと工夫」

「今日も暑いね〜」と、毎日のように繰り返される言葉。猛暑日が続く、日中は外で遊ぶことができない日も続きました。そんな中、子どもたちの夏休みの活動にもひと工夫しました。

7月31日(水)の「デイキャンプ」では、バスに乗って「佐野市こどもの国」へ行きました。「こどもセンター」や「こどもの森」での活動は、すべてグループ活動をして過ごします。子ども同士で相談し、自由に冒険・体験しながら楽しく過ごすことができました。午後は、バスで移動し足利市の「FUKAI SUQUARE GARDEN」へ。ここでもグループ活動。体育館で、卓球・ドッジボール・鬼ごっこなどで思いっきり遊びました。

8月24日(土)の「夏祭り」では、いつものお店に加え、「わたがし」、「手作りキーホルダー」のお店を出店しました。そのお店では、子どもたちが売ったり作ったりして直接関わりました。「味はおいしかったけど、形がうまくいかなかった。」「プラバン制作約30個、作るのが大変だった。」など、子どもたちの苦労話を聞くことができました。今年の「夏祭り」も大盛況でした。

岩崎 和則



宇都宮市青少年活動センター(トライ東)

「トライ東ハロウィンカーニバル2024開催!」



毎年恒例の『トライ東ハロウィンカーニバル2024』を開催します!

①おばけ親子パレード&コスチュームコンテスト
トライ東周辺のお店や公共施設に仮装をして「トリックオアトリート!」

②ハロウィンえんいち
楽しいミニゲームや出店があります!
ハロウィンのお祭りを楽しもう!

小さなお子さまや、地域の皆さまに楽しんでいただける企画をご用意してお待ちしております。

詳細はコチラ!▶

プログラムの詳細については
ブログをご覧ください。
専用フォームからお申込みを
お願いいたします。



サマープログラムありがとうございました。

とちぎ YMCA ではこの夏、子どもたちの全人的成長を願い、サマープログラムを実施いたしました。それぞれのプログラムでは「体験のその先にある成長」をテーマに実施し、自然の恵みを通して、子どもたち一人ひとりがグループのメンバーやリーダーと関わる体験をしたことで、「協力する」ことの楽しさや大切さ、「人とのつながり」を持てる嬉しさ、仲間どうし「互いを認め合う」ことの大切さを心で感じる事ができた活動となっていたら幸いです。

日光ほしぞらキャンプ

自然の豊かさが魅力の1つである「CAMP IN ドロブックル」で3日間を過ごしました。1日目の朝はすこし緊張していた子どもたち。キャンプ場に到着してからは声を上げてはしゃぐ様子が印象的でした。3日間のキャンプを通して、「ご飯を自分の手で作る」「友だちと一緒に遊ぶ」といった協力することの大切さや達成感を感じる経験となりました。ドロブックルで過ごした3日間はあっという間で、子どもたちだけでなく、リーダーも楽しむことができ、テーマのとおり輝く笑顔で溢れたキャンプとなりました。

国際医療福祉大学 佐藤孝輝 (めんまりリーダー)



ふくしま湖畔キャンプ

ふくしま湖畔キャンプでは、謎の生物「いなっしー」を見つける探検プログラムを行いました。猪苗代湖での「湖水浴」は普段できない活動のため、水遊びをリーダーも子どもたちも楽しむことができました。今回のキャンプではリーダーが食前のお祈りをするのではなく、担当になった子どもたちが行いました。グループごとによく考え、工夫をして行うことができました。グループの仲だけでなく、グループの垣根を超えた仲が生まれたとても楽しいキャンプとなりました!

国際医療福祉大学 小松崎颯太 (つな)



さしまチャレンジキャンプ

「みっけ!」をテーマとし、川あそびやネイチャービンゴ、流しそうめんなど様々な活動を行いました。自然の中で沢山の生き物を見つけ、ネイチャービンゴではグループの仲間と協力して、無事ゴールにたどり着くことができました。真っ暗な夜を照らしたキャンプファイヤーでは、最後に火を囲んでテーマソングを歌い、みんなの心がひとつになりました。2日目は流しそうめん!火起こしから行い、みんなで力を合わせて作ったそうめんは、より一層おいしく感じたようです。2日間を通して仲間と共に汗を流し、夏を存分に感じられるキャンプとなりました。

白鷗大学 手塚朱里 (しゅうちゃんリーダー)



冬休みのウインタープログラムは11月から申込み開始予定です。
今後もとちぎ YMCA シーズンプログラムをよろしくお願いいたします!

多文化多世代交流子育てサロン MINNA のいばしょオープン

国籍・宗教に関わらず、誰でも利用できるみんなのいばしょ。

多文化多世代交流子育てサロン
MINNA のいばしょ
だれでも利用できる居場所

開催日
9/5 (木) ~ 毎週木曜日
第1・3木曜日 9:00~12:00
第2・4木曜日 10:00~13:00

MINNAのいばしょがオープンします。外国にルーツを持つ子育て世代や、地域のお年寄りの居場所として、交流スペースを提供いたします。どなたでも利用可能ですので、多文化共生にご興味のある方、ご近所の方、ちょっと休憩しにお越しください。

海外から来て子育てしているファミリーを知りませんか?

宇都宮市の「共生の居場所」の一つとして、YMCA EAST に「MINNA のいばしょ」多文化多世代交流子育てサロンがオープンしました。日本人の子育て家庭だけでなく、外国にルーツをもつ子育て家庭の居場所にもなるよう、多言語の絵本や、英語が話せるスタッフが常駐し、交流をサポートします。国籍、宗教に関わらず、みんなが集える「居場所」です。お知り合いの海外からきて子育てしているファミリーにぜひ、お知らせください。また、だれでも利用できる居場所ですので、地域の方にも休憩スペースとしてご利用いただき、交流の場を盛り上げていただけると嬉しいです。

公益財団法人 とちぎ YMCA YMCA EAST

【住所】栃木県宇都宮市陽東 4-18-30

【電話】028-661-7451

【お問合せ】info-international@tochigi-yymca.org

詳細はコチラ!▼

とちぎ YMCA ホームページ『国際教育プログラム』をご覧ください。



POINT 1 / 日本語ができなくても安心
英語ができるスタッフが常駐しています。日本語や英語ができなくても安心できる環境を過ごしています。

POINT 2 / 多言語の絵本があります
英語・日本語・ベトナム語・中国語の絵本を用意しています。
*その他の言語をご希望の方はお問い合わせください。

POINT 3 / ランチ提供もあります
第2・4木曜日はランチも提供します。ベジタリアンや宗教による食事制限もできる順に対応いたします。

対象 だれでもご利用いただけます。
定員 10名程度
利用料金 利用料は無料
ランチを希望する方は200円/大人

活動を支えてくださる方募集中です!
●本の管理 ●お話し相手
●料理作り ●子どもの見守り
などなど居場所運営に関わるボランティア

公益財団法人とちぎYMCA
YMCA EAST
028-661-7451
info-international@tochigi-yymca.org
宇都宮市陽東4-18-30 LRT宇都宮大学南キャンパス駅より徒歩7分 (駐車場あり)

清原地域子どもたちのキャンプ



9月14日(土)～15(日)に『清原地域体験キャンプ』が清原東小学校で開催されました。清原地区の小学校5校(清原中央・清原北・清原南・清原東・ゆいの杜)の4～6年生の子どもたちが参加し、地域探検や野外炊飯、キャンプファイヤー、花火等を体験するキャンプです。キャンプ運営は清原地区の青少年育成協議会や小中学校地域協議会、子ども会連合会などの方々が行い、「まち」が運営する「まち」の子どもたちのためのキャンプです。YMCAは2名のスタッフ(荒井・袖山)、1名のリーダー(ふっか)でキャンプ運営や野外炊飯指導等のお手伝いをさせて頂きました。47名の子どもたちが元気に参加し、様々なアクティビティに積極的に取り組み、子どもたちにとって実り多き時間を過ごすことができました。



YMCAがお手伝いをさせて頂いて今回で6回目となり、様々な実体験が子どもたちの成長に繋がることを願っています。

荒井 浩元

月刊#(ハッシュタグ)



第39回 #なにそれなにそれ

#ロボット#セルフレジ#スキーマ#ステレオタイプ
#偏見#差別

とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

コンビニやスーパーのセルフレジはお釣りを早めにとらないと催促されて忙しいですが便利です。焼肉屋さんのロボットも下膳配膳の呼吸が合えば食事は快適です。LRTの乗車券もICカードが楽です。無人化した新システムは、はじめこそ少々戸惑うのですが、それでも使えばすぐに快適となるものです。

これは、わたしたちのなかに「お買い物」や「料理の注文」や「電車への乗車」にまつわる一連の過去の経験が記憶として保持されていて(商品を選んで→レジにもって行って→精算する、乗った場所と降りた場所の間の運賃を払う、注文した料理の皿を受け取って→食べ終わった空の皿を下げてもらう)など、さまざまな状況や行動の手続きやルールに関する情報が「だいたいこういうものだ」という知識として共通に得られているためだからだそうです。

このように定着して定型化された知識を「認知的知識構造:スキーマ」や「ステレオタイプ」というのだそうで、これを活用すると未知の知識の処理に「解釈」や「予知」「推測」「効率化」がもたらされるのだそうです。

「常識」や「慣習」などはこうして出来上がっていることが少なくありません。

ところが「解釈」や「予知」「推測」「効率化」が人やグループに対して安直に用いられると、特性について単純化された「だいたいこういうものだ」が強い「思い込み」につながり、そこに「好きとか嫌いとか」「良いとか悪いとか」の感情が張り付いてしまうと(特にネガティブな感情は)「偏見」へとつながりかねないそうです。例えば〇〇国の人みんなこんな感じで嫌だ、近頃の若ものはみんなこうで扱いづらい、などです。

さらにこうした「偏見」に基づいて意思決定や行動が取られたときに「差別」が生じるのだそうです。

未知の経験への理解を助ける「認知的知識構造:スキーマ」や「ステレオタイプ」が、使い方ひとつで人やグループに対する理解を妨げて「思い込み」～「偏見」～「差別」へと道を誤らせることにもなるみたいですね。

認識に感情が張り付くことでアレコレ複雑になるところが、人間的というか、厄介だというか、共生社会の永遠のテーマですね。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」

つぼみ通信 vol.17



ママパパキッズフェスタへ出店!

8月24日(土)、マロニエプラザで開催された『ママパパキッズフェスタ』に参加いたしました。会場は、各企業やスポーツチームなど77の出展ブースがあり、大勢の人で賑わっていました。とちぎYMCAは、「ママパパキッズフェスタ」で出店するブースのうちの1つで、スタンプラリーの対象箇所にもなっていました。「公益財団法人とちぎYMCA」として出展したので、各拠点の案内掲示とつぼみ食堂で使用しているぬりえを用意しました。参加をした高校生は、最初は緊張しながらも来場された方に積極的に声をかけ、自分たちの活動についての説明をしたり、子どもたちと一緒にぬりえを楽しんだり、充実した時間を過ごすことが出来ました。また他のブースの体験させて頂く中で、改めて自分たちの活動について振り返ることが出来ました。最終的には80名以上の方につぼみ食堂のご説明とチラシを直接お渡しすることが出来ました。おひとりお一人に説明をしながらチラシをお渡すことは、初めての経験だったようで、終わったあとの顔は達成感を感じているように見受けられました。以下は参加した高校生の感想です。

初めての経験で、人も大勢いらしたのでとても緊張しましたが、つぼみについて説明をし、チラシをお渡しすることが出来ました。また、一緒にぬりえをしてくれる子どもたちもいたのでとても楽しかったです。

【感謝】2024年度とちぎYMCA 会員報告

■2024年6-9月 会費ご納入いただいた皆さま(敬称略)

螺良修一、橋本寿夫、中村俊幸、十河弘、村山直樹、持田二郎、高村和夫、高橋文代、増山雄貴(増山公認会計士事務所)、田巻秀樹、伊澤良則、布川武男、丸山孝、伊澤智昭、高村博、齋藤仁、金田敏雄、種ヶ島和洋、並木信一、福本知恵子、江口健司、横嶋依里子、矢部真人、山口俊一、田上中・徳子、田中陽稀、田中袖妃、伊藤貴子、石川雅之、阿久津哲男、井口美代子、田代富夫、山崎敦子、平田和子、増山律子、佐藤隆久、里村美奈、中村新、中村咲舞、宇都宮乳業(株)代表取締役 福田隆男、菊地知子、中川哲夫、谷津行男、久保孝弘、長谷範子、川上聖子、宮下博行、秋田正人、上野順一郎、上野すみ子、武藤玄、富士フィルムビジネスソリューションズ(株)、大島清子、鷹箸孝

ありがとうございました。